

日本・スウェーデン外交関係樹立 150 周年 スウェーデン映画への招待

Invitation to Swedish Film History at the 150th Anniversary of Sweden-Japan Diplomatic Relations

会期:2018年11月27日(火)–12月13日(木)、12月15日(土)–23日(日・祝)

会場:国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU (2階)



『母というだけ』

『ミス・エイプリル』

『俺たちはモッズと呼ばれる』

『スウェーディッシュ・クラブ・ストーリー』

スウェーデン映画史の全貌を明らかにする特集上映

国立映画アーカイブでは、日本・スウェーデンの外交関係樹立 150 周年を迎える本年、スウェーデン映画協会と共同でスウェーデン映画の特集上映を開催します。カンヌでパルム・ドールを受賞した『ザ・スクエア 思いやりの聖域』(リューベン・オストルンド監督、2017 年)など、近年注目を集めるスウェーデン映画ですが、その長く豊かな歴史は意外に知られていません。当館でも過去(1966 年と 1983 年)に二度、スウェーデン映画の回顧特集を組みましたが、それらは主に V・シューストルムや M・スティッレルなど無声期のスウェーデン映画の名作や、巨匠イングマル・ベルイマンの作品にスポットを当てるものでした。しかし、実際にはスウェーデンのさまざまな映画作家たちが、スウェーデンに固有の自然や歴史／社会的条件の下、ユニークな作品を数多く撮ってきたのです。

本上映は、ベルイマン作品や同国出身の女優イングリッド・バーグマンの作品はもちろん、スウェーデン国民が愛した大衆喜劇やメロドラマ、スウェーデン映画史上の重要作、ポー・ヴィーデルベリやヤーン・トロエルら 1960 年代に台頭した新世代の映画作家たちによる革新的作品など、**日本未紹介の作品を多数含む、1934 年から 1982 年までにわたる計 30 本(24 プログラム)のスウェーデン映画を上映します。**これほど時代や監督、ジャンルのバラエティに富んだスウェーデン映画特集は過去に類を見ず、スウェーデン映画の歴史を体系的に知ることができる絶好の機会となるでしょう。

この機会を映画ファンの皆さまが見逃されぬよう、ぜひ本企画の周知へのご協力を賜りますと幸いです。

▼本特集の見どころ▼

1930～1980 年のスウェーデン映画の歴史を知ることができる、バランスよく選び抜かれた上映ラインナップ

<注目の映画作家>

グスタヴ・モランデル——I・バーグマンとのコンビで知られる、メロドラマの名匠 (『女の顔』『首飾り』『炎は燃える』)

アーネ・スックストルフ——スウェーデンを代表するドキュメンタリー作家。(『くちばし』『街の人たち』『出立』『幸せは遠い雲の下に』)

ポー・ヴィーデルベリ——1960 年代以降のスウェーデン映画の「新しい波」を牽引した一人。(『貧民街』『刑事マルティン・ベック』)

ヤーン・トロエル——ヴィーデルベリと並んでスウェーデン映画の「新しい波」を牽引。(『ここにあなたの人生がある』『アンドレーの北極気球探検行』)

ステーファン・ヤール (& ヤール・リンドクヴィスト)——「モッズ」3 部作。(『俺たちはモッズと呼ばれる』『まともな人生』)

<スウェーデン映画・注目の側面>

印象的な女性像 『母というだけ』『娘とヒヤシンス』『ガールズ』

ドキュメンタリー 『イングリッド・バーグマン選集』『アーネ・スックストルフ選集』『俺たちはモッズと呼ばれる』『まともな人生』

大衆娯楽作品 『ペンション「楽園」』『炎は燃える』『露は溢れ雨は落つ』『ミス・エイプリル』『刑事マルティン・ベック』

その他にも・・・

- 巨匠ベルイマンの初期作 2 本の貴重な上映。特に『牢獄』(1949) はキャリア上の転機にもなった重要作。
- I・バーグマンが主演した長短篇とドキュメンタリー計 4 本の選集。パートナーである R・ロッセリーニや子どもたちとの様子をとらえた貴重な記録映像や、傑作短篇『首飾り』(1967) に注目。
- 期間中にはスウェーデン映画協会から専門家を招き、スウェーデン映画史に関する講演会も開催。

■各作品の見どころ ★は当館所蔵フィルム

1. カール=フレドリク 統治す (1934) 監: グスタヴ・エードグレン

2年前の社会民主党政権の樹立を受けて、社会変革や階級変動の可能性を説いた社会派映画

2. ペンション「楽園」 (1937) 監: ヴェイレル・ヒルデブランド

現在でもスウェーデン国民から愛される大衆喜劇

3. キャリア (1938) 監: シャミール・パウマン

温かな人情描写で人気のあったパウマン監督によるバックステージもの

4. 〈イングリッド・バーグマン選集〉

女の顔 (1938) 監: グスタヴ・モランデル 整形手術により身も心も美しく変化した女性の物語

イングリッド・バーグマン、パースにて (1953) 監: 不明 久々に故国に帰ったバーグマンをとらえた記録映画

ロッセリーニ家とのひととき (1953) 監・脚: ヤット・エングストム 『イタリア旅行』の撮影中に撮られたロッセリーニ一家の貴重な映像

首飾り (1967) 監・脚・出: グスタヴ・モランデル モランデルとの最後のコラボレーションとなった傑作短篇

5. 炎は燃える (1943) 監: グスタヴ・モランデル

第二次世界大戦で中立を保ったスウェーデンのジレンマが凝縮された戦争メロドラマ

6. 露は溢れ雨は落つ (1946) 監・脚: グスタヴ・エードグレン

自然描写が魅力的で、当時最大のヒットとなった恋愛映画

7. 見知らぬ港 (1948) 監: エーリク・“ハンベ”・ファウストマン

ナチス・ドイツの密輸を阻止しようとするスウェーデン貨物船員の決死の抵抗を描いた作品

8. 牢獄 (1949) 監・脚: イングマル・ベルイマン

ベルイマンの初期キャリア上の転機となった重要作

9. 母というだけ (1949) 監・脚: アルフ・シューベリ

20世紀初めのスウェーデンの農村地帯で、苦しい生活に負けずに子供を育て上げる母の一代記

10. 娘とヒヤシンス (1950) 監・脚: ハッセ・エークマン

洗練された演出で先駆的なテーマを取り上げた、スウェーデン映画史上の最重要作品の一つ

11. 春の閑え (1951) 監: アーネ・マツソン

戦後のスウェーデン農村社会の変化を、大人と若者との熾烈な世代間闘争のドラマとして描いた問題作

12. 道化師の夜 (1953) 監・脚: イングマル・ベルイマン

人間の受ける屈辱という感情を正面から見据えた、ベルイマンの辛辣な演出が見もの

13. ミス・エイプリル (1958) 監・脚: ヨーラン・イエンテレ

お堅い銀行頭取がオペラ歌手として目覚め、ダンサーの娘と恋に落ちる軽快なミュージカル

14. 貧民街 (1963) 監・脚: ポー・ヴィーデルベリ

スウェーデン映画の新時代を象徴する、ヴィーデルベリの記念すべき長篇デビュー作

15. 〈アーネ・スックスドルフ選集〉 ※すべてスックスドルフ監督脚本作品

くちばし (1944) 無人の海岸で鳥たちが繰り広げる過酷な生存競争をとらえる

街の人たち (1947) スウェーデン映画で初めてアカデミー賞を受賞した「都市交響楽」風ドキュメンタリー

出立 (1948) ロマの人々が旅立つ姿を描く

★ 幸せは遠い雲の下に (1965) リオデジャネイロの高台のバラックに住む4人の孤児たちをとらえた、スックスドルフの代表的長篇

16. ここにあなたの人生がある (1966) 監・脚・撮: ヤーン・トロエル

トロエルの長篇デビュー作にして、唯一無二の詩情ををまとう決定的代表作

17. 天使のともじび (1967) 監・脚: シエル・グレーデ

少女と少年の交流を自然主義的な眼差しでとらえた、児童映画の名篇

18. ガールズ (1968) 監・脚: マイ・セツテルグ

女性の権利獲得をめぐる困難を、現実と非現実が入り交じる大胆な形式で表現

19. 俺たちはモッズと呼ばれる (1968) 監・脚・撮: ステーファン・ヤール、監・脚: ヤーン・リンドクヴィスト

福祉国家からこぼれ落ちてしまった若者たちを浮き彫りにする「モッズ」3部作の第1作

20. まともな人生 (1979) 監・脚: ステーファン・ヤール

前作の約10年後の若者たちを追った「モッズ」3部作の第2作

21. スウェーディッシュ・ラブ・ストーリー (1970) 監・脚: ロイ・アンダーソン

26歳のR・アンダーソンのデビュー作で、十代の若者の恋を綴って大ヒットした

22. 刑事マルティン・ベック (1976) 監・脚: ポー・ヴィーデルベリ

世界的に知られる警察小説を本国で映画化し、当時記録的なヒットとなった

23. ピカソの冒険 (1978) 監・脚: ターゲ・ダーニエルソン

スウェーデン人なら誰もが知っているコメディアン・チームによる、奔放かつナンセンスなピカソの伝記映画

★ 24. アンドレーの北極気球探検行 (1982) 監・脚・撮: ヤーン・トロエル

19世紀後半に気球での北極点到達を試みた冒険家の、野望と挫折を描いた歴史映画

※プログラム5および24では、日本とスウェーデンの交流を示す、貴重な記録映画も参考上映します。

★ スウェーデン皇太子殿下同妃殿下御来朝 (1926) 監督: 不明 グスタヴ・アードルフ皇太子 (のちのグスタヴ6世) が1926年に来日した時の記録映画。スウェーデン映画協会所蔵の可燃性35mmフィルムから、今回新たにプリントを作製。



『ペンション「楽園」』



『露は溢れ雨は落つ』



『道化師の夜』



『ここにあなたの人生がある』



『アンドレーの北極気球探検行』

■講演会

トーカー以降のスウェーデン映画史～モランデルからトロエルまで

日時：12月8日（土）1:55～2:55pm（終了時刻は予定）

講演者：カイサ・ヘードストルム Kajsa Hedström（スウェーデン映画協会映画遺産部）

* 逐次通訳付き、入場無料

* 当日1回目の上映をご覧になった方は、そのまま講演会に参加することができます。講演会のみ参加もできます。

■巡回上映情報

○京都国立近代美術館

2018年12月7日（金）、8日（土）

○福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

2019年2月1日（金）から2月24日（日）* 休館日：月曜日、火曜日



『ロッセリーニ家とのひととき』



『貧民街』



『幸せは遠い雲の下に』



『ピカリの冒険』

■開催概要

日本・スウェーデン外交関係樹立 150 周年 スウェーデン映画への招待

Invitation to Swedish Film History at the 150th Anniversary of Sweden-Japan Diplomatic Relations

会期：2018年11月27日（火）～12月13日（木）、12月15日（土）～23日（日・祝）* 月曜休館

会場：国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU(2階)

主催：国立映画アーカイブ、スウェーデン映画協会

協力：スウェーデン大使館



料金：一般 520 円／高校・大学生・シニア 310 円／小・中学生 100 円／障害者（付添者は原則 1 名まで）、国立映画アーカイブおよび東京国立近代美術館のキャンパスメンバーズは無料

11月13日（火）10時より、チケットぴあにて全上映回の前売券（全席自由席・各 100 席分）を販売します。[Pコード:559-141]

購入方法や発券手数料等の詳細はホームページかプログラムでご確認ください。

掲載用のお問い合わせ先：03-5777-8600（ハローダイヤル）

本特集の HP→<http://www.nfaj.go.jp/exhibition/sweden201810/>

【本特集に関するお問合せ】

国立映画アーカイブ 上映展示室 白鳥・玉田・大澤・岡田

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6 TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 pr@nfaj.go.jp